

日本語学習者のカタカナ語の発音知覚率*

李香蘭 **

(e-mail : ran96@wonkwang.ac.kr)

<目次>

0. はじめに	2.1 JLPT1級の知覚率
1. 研究方法と調査対象	2.2 JLPT2級の知覚率
1.1 調査対象者	2.3 JLPT3級の知覚率
1.2 調査対象語	2.4 JLPT4級レベルの知覚率
2. カタカナ語の発音の知覚率	3. おわりに

キーワード：発音の知覚率(perception rate for pronunciation), 特殊拍の感覚(sense of the special mora), 「ッ」と「ー」の脱落現象(the phenomenon of 「sokuon」 and 「hikuon」 falling off), 「ッ」挿入現象(the phenomenon of 「sokuon」 insertion), 母語の干渉(interference of the mother tongue)

0. はじめに

カタカナ語は同一な語が韓国語にも存在しているのにも関わらず、拙稿(2014)の韓国人の日本語学習者のカタカナ語の書き取りテストの結果はレベル別少し差はあるものの、平均知覚率は64.4%で調査され、カタカナ語の習得はかなり困難であることがわかった。それに、カタカナ語の文字自体は認識していながらも、実際の発音の面ではよくできないことを発音教育現場で実感している。これは、日本語の中でカタカナ語の比重が段々高くなっているのにも関わらず、韓国の日本語教育現場では「ひらがな」に比べカタカナ語は体系的に指導していないのが原因であろう。

そこで本稿では、拙稿(2014)のカタカナ語の書き取りテストの結果を用いて発音とのずれがどれぐらいあるのか。つまり、文字の知覚率と発音の知覚率の差を調査したい。またこのようなずれの原因や発音の知覚率に影響を与えている要因、日本語能力との関わりなどを

* この論文は2013年度円光大学、校内研究費支援により助成された。

** 円光大学日本語教育学科教授、日本語教育・日本語音声教育専攻

多角的に分析・検討し、今後韓国人の日本語学習者のカタカナ語の発音教育に役に立てたい。

(*研究対象語や対象者は拙稿(2014)のと全く同じであり、調査の時期も書き取りテストと同じである。)

1. 研究方法と調査対象

高校で日本語を1年以上経験し、現在¹⁾圓光大学日本語教育学科に在学している43名を対象にカタカナ語の発音テストを実施した。このうち、対象者の人数をレベル別に合わせるため、8名ずつ計32名のみ、本稿の対象者にした。

研究方法是現在高校で使用している2007・2009改訂課程の日本語 I 教科書に出ているカタカナ語2拍語から7拍語まで21語を調査対象語にした。この21語に原語も表記し、ランダムで各単語ごと3回²⁾ずつ発音させ、録音を採って分析した。発音の分析は東京出身である日本語の教師と拙者が行なった。

このテストの結果を用い、拍数別・日本語能力別に分けて分析・検討する。日本語能力がカタカナ語の発音にどれほど影響を与えているのか。また拍数別の知覚率はどれぐらいの差があるのか。それから特殊拍などの音節構造や音声的な特徴、母語の影響などがカタカナ語の発音に影響を与えるのか、などの観点から分析・検討していく。

1.1 調査対象者

JLPT1級取得者8名³⁾、JLPT2級取得者8名⁴⁾、JLPT3級取得者8名⁵⁾、
JLPT4級レベル⁶⁾8名⁷⁾

1) 2013年11月調査当時

2) 2回以上同じ発音をしたものを知覚率とした。

3) 4年生4名、3年生2名、2年生1名、1年生1名；A1(4年) A2(3年) A3(4年) A4(3年) A5(1年)
A6(4年) A7(4年) A8(2年)

4) 4年生2名、3年生3名、2年生2名、1年生1名；B1(3年) B2(3年) B3(2年) B4(4年) B5(4年)
B6(3年) B7(1年) B8(2年)

5) 4年生1名、3年生2名、2年生3名、1年生2名；C1(4年) C2(3年) C3(3年) C4(1年) C5(2年)
C6(2年) C7(1年) C8(2年)

6) JLPT 4級は取っていないが、日本語経験が最低1年以上で4級レベルであると判断される学習者8名である。(以下、4級レベルと省略する。)

7) 3年生1名、2年生3名、1年生4名；D1(3年) D2(2年) D3(2年) D4(2年) D5(1年) D6(1年) D7(1年)

1.2 調査対象語

現在韓国の高校で使用している2007・2009改訂日本語教科書 I に出ているカタカナ語を調べ、最終的に21語を取り出して本稿の調査対象語とした。高校の教科書のカタカナ語を扱うのは、今回の調査の対象者全員が高校で最低1年間日本語の経験のある学習者であるためである。拍数別内訳は次のようになる。

(1)2拍語

ドア(door)^⑧、シャツ(shirt)①、バス(buss)①、パン(pan)① (4語)

(2)3拍語

カード(card)-3、クラス(class)-3、コピー(copy)-3、

ジュース(juice)-3、ペット(pet)-3、メニュー(menu)-3 (6語)

(3)4拍語

アドレス(address)-4、サッカー(soccer)-4、スポーツ(sports)-3、

チケット(ticket)-3、ネクタイ(necktie)-4、パーティー(party)-4 (6語)

(4)5拍以上の語

コンサート(concert)-5、ボランティア(volunteer)-4、リサイクル(recycle)0、

ホームページ(home page)-3、インターネット(internet)-3(5語)

2. カタカナ語の発音の知覚率

カタカナ語の発音テストを行なった結果を用い、拍数別・日本語能力(JLPTを基準とする)別に分けて分析・検討する。日本語能力がカタカナ語の発音にどれほど影響を与えているのか。書き取りテストの結果では1級は86.9%、2級は79.2%、3級は63.1%、4級レベルでは28.6%の知覚率を見せ、日本語能力が高いほど知覚率も高く現れた。また拍数が知覚率にどれほど影響を与えているのか。それから特殊拍などの音節構造や音声的な特徴、母語の影響などがカタカナ語の発音にどれほど影響を与えるのか、などの観点から分析・検討していく。ここでは、アクセントの問題は扱わず、音韻構造の視点から検討してみた。

D8(1年)

8) アクセント型を前の拍から数える方法で示したものである。(以下、同じである。)

2.1 JLPT1級の知覚率

2.1.1 2拍語

2拍語のカタカナ語をJLPT1級(以下、JLPTを略する)に発音テストを行なった結果を[表1]に示した。「バス・パン」2語は8名とも知覚率100%であるが、「ドア」は母語の影響で「도어」で発音した例が1名いた。「シャツ」はA2は「サッツ」「A5は「シャッツ」のように「ツ」の前に促音を挿入した形で、A6は「シャーツ」で発音してもらった。このように「長音」や「促音」の挿入現象は第1拍目を高く発音するため、この拍を強調された結果によるだろう。1級の2拍語全体の書き取りテスト⁹⁾では93.8%の知覚率をみせたが、発音テストでは87.5%の知覚率をみせ、書き取りより読み取りの知覚率がやや低く調査された。

<表1>1級の2拍語の内訳

	ドア	シャツ	バス	パン
A1	○	○	○	○
A2	○	サッツ	○	○
A3	○	○	○	○
A4	○	○	○	○
A5	도어	シャッツ	○	○
A6	○	シャーツ	○	○
A7	○	○	○	○
A8	○	○	○	○
正解率	7/8 8/8	5/8 6/8	8/8 8/8	8/8 8/8

2.1.2 3拍語

1級の3拍語の内訳を<表2>に示した。書き取りテストでは平均の知覚率は85.4%、「カード・クラス・ジュース、ペット」は100%をみせているが、発音では平均70.8%をみせ、全員正しく発音した例は「クラス」1語のみである。「ペット」では2/8¹⁰⁾が促音のところを発音せず「ペト」に発音され母語の「페트」の影響が伺える。残り「カード・コピー、ジュース、メニュー」の発音の誤りの大部分は長音「ー」を発音しない結果によるものである。語中より語末の「ー」発音の誤り率が高かった。

9) 拙稿(2014)の書き取りテストのことをいう。(以下、同じである。)

10) 1級の8名のうち2名を示す。(以下、同じである。)

<表2>1級の3拍語の内訳

	カード	クラス	コピー	ジュース	ペット	メニュー
A1	○	○	○	○	○	○
A2	○	○	○	○	○	○
A3	○	○	○	○	○	○
A4	○	○	○	○	○	メニュー
A5	カド	○	コッピ	ジュス	○	○
A6	カド	○	コッピ	ジュス	ベト	メニュー
A7	○	○	コピ	○	○	メニュー
A8	○	○	コピ	○	ベト	メニュー
知覚率	6/8	8/8	4/8	6/8	6/8	4/8
	8/8	8/8	5/8	8/8	8/8	4/8

2.1.3 4拍語

<表3>に1級の4拍語の内訳を示した。平均の知覚率は66.7%(87.5%¹¹⁾)であらわれ、2拍語や3拍語より低かった。「アドレス・スポーツ・ネクタイ」は2/8が誤って発音されていた。「サッカー・チケット」は促音が含まれているためか、誤り率がやや高くあらわれた。「パーティー」の場合、1級でも4/8が「パーティ・パーテ(2名)・パティ」に発音され、書き取りテストと対照的に¹²⁾語中の「ー」より最後の拍の「ー」を知覚していないためである。

<表3>1級の4拍語の内訳

	アドレス	サッカー	スポーツ	チケット	ネクタイ	パーティー
A1	○	○	○	○	○	○
A2	○	○	○	○	○	○
A3	○	サッカ	スポツ	○	ネクタイ	○
A4	○	○	○	チケ	○	パーティ
A5	アドレス	サッカ	○	○	○	パーティー
A6	アドレス	シャッカ	○	チケット	ネクタイ	○
A7	○	○	スポーツ	チケット	○	パーティー
A8	○	○	○	○	○	パーティー
知覚率	6/8	5/8	6/8	5/8	6/8	4/8
	7/8	7/8	8/8	8/8	7/8	5/8

11) ()のなかは拙稿(2014)の書き取りテストの知覚率を示す。(以下、同じである。)

12) 書き取りテストでは誤った例は「パーティー(2名)・パター」であらわれ、全員最後の「ー」は知覚していた。

2.1.4 5拍語以上

1級の5拍語以上¹³⁾の内訳を<表4>に示す。平均67.5%(82.5%)の知覚率をみせ、拍数が長いためか、書き取りと発音とのずれが一番大きく調査された。「コンサート6/8・ボランティア5/8・リサイクル7/8」では母語の影響によるものや「ティ」の認識問題などで、正確に発音できなかったと思われる。5拍語より6拍語「ホームページ4/8・インターネット5/8」のほうが特殊拍が多く含まれているためか、知覚率が低くあらわれた。また6拍語の「ホームページ」の場合、韓国語の「홈페이지」が4音節であるため、「홈ページ・홈페이지」などのように短く発音する現象が起ったと思われる。「インターネット」も「인터넷」の影響を受けて知覚率が低かった。

<表4>1級の5拍語以上の内訳

	コンサート	ボランティア	リサイクル	ホームページ	インターネット
A1	○	○	○	○	○
A2	○	○	○	○	인터넷
A3	○	○	○	홈페이지	○
A4	○	○	○	○	○
A5	콘서트	보ランティア	○	홈페이지	인터넷
A6	○	보ランティア	리싸이클	홈페이지	○
A7	○	○	○	○	○
A8	コンサート	보ランティア	○	ホームページ	인터넷
知覚率	6/8 8/8	5/8 5/8	7/8 7/8	4/8 7/8	5/8 6/8

2.2 JLPT 2級の知覚率

2.2.1 2拍語

2級の2拍語の発音テストを行なった結果を<表5>に示した。平均78.1%(90.6%)の知覚率をみせ、書き取りより発音の知覚率が低く調査された。書き取りでは「ドア・バス・パン」3語は1級と同様に知覚率100%を示したが、発音では「パン」1語のみ全員正解で「シャツ」は促音挿入現象や母語などの影響で2級でも50%の知覚率しか見られていない。「도어・버스」で発音した例も見られた。

¹³⁾5拍語3個、6拍語1個、7拍語1個を現わす。

<表5>2級の2拍語の内訳

	ドア	シャツ	バス	パン
B1	○	○	○	○
B2	○	シャーツ	○	○
B3	ドアー	○	버스	○
B4	ドワ	셔츠	○	○
B5	○	シャッツ	○	○
B6	○	○	○	○
B7	○	○	○	○
B8	○	シャッツ	○	○
知覚率	6/8 8/8	4/8 5/8	7/8 8/8	8/8 8/8

2.2.2 3拍語

<表6>に2級の3拍語の発音の内訳を示した。平均62.5%(81.3%)の知覚率を見せ、書き取りの知覚率を大きく下回っていた。書き取りでは「カード・ジュース」の知覚率は100%であったが、発音では2語とも母語の「카드・쥬스」が2音節であることや「長音」の感覚の欠如などの問題で知覚率が低かった。「ペット」では3/8が促音脱落現象を見せたのに対して「コピー」は2/8が「コピ」¹⁴⁾と発音され、無声音[pi]の前に「促音」を挿入する傾向¹⁴⁾を見せている。「メニュー」の場合3/8は最後の拍の「ー」を知覚せず、発音している。

<表6> 2級の3拍語の内訳

	カード	クラス	コピー	ジュース	ペット	メニュー
B1	○	○	○	○	○	○
B2	○	클라스	코피	○	ぺーと	○
B3	カド	○	○	ジュス	○	メニュ
B4	○	○	コピ	ジュス	○	○
B5	カド	○	コピ	○	ぺと	メヌ
B6	○	○	○	○	○	メヌー
B7	カアド	○	コピ	ジュス	ぺと	メニュ
B8	○	○	○	○	○	○
知覚率	5/8	7/8	4/8	5/8	5/8	4/8

14) 促音は「促音」挿入現象については関光準(2000)に詳しい。

	8/8	6/8	6/8	8/8	7/8	6/8
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----

2.2.3 4拍語

<表7>に2級の4拍語の発音の内訳を示しているように平均62.5%(79.2%)の知覚率を見せている。1級と同様に「チケット・パーティー」の知覚率が低くあらわれている。これは特殊拍の「ッ・ー」の認識の問題や促音は「ー」に語中の長音は「ッ」に発音される傾向があるからであろう。「サッカー」は語末の長音の感覚の欠如や「サ」を「シャ」に発音すること、「スポーツ」は母語「스포츠」の影響で知覚率が低かった。「ネクタイ」は「ク[kw]」の[w]のところを母音の無声音化をせず「네코タイ」と発音する例が見られた。

<表7> 2級の4拍語の内訳

	アドレス	サッカー	スポーツ	チケット	ネクタイ	パーティー
B1	○	○	○	○	○	○
B2	○	○	○	チケット	○	○
B3	アドレス	○	○	チケ	○	パッティー
B4	○	サッカ	スポツ	○	네코타이	○
B5	○	○	○	チケット	○	○
B6	○	サッカ	スポツ	티켓	네코타이	파티
B7	アドレス	シャカ	○	○	○	パーティー
B8	○	○	스포츱	○	○	파티
知覚率	6/8	5/8	5/8	4/8	6/8	4/8
	8/8	6/8	6/8	6/8	7/8	4/8

2.2.4 5拍語以上

<表8>に示すように2級の5拍語以上の発音の知覚率は60%(67.5%)で調査された。1級の67.5%(82.5%)に比べて低い。「ホームページ3/8・インターネット4/8」は1級のところにも指摘したように母語の「홈페이지・인터넷」の音節の影響¹⁵⁾や長音の認識問題から来る影響などが考えられる。「コンサート」は「콘서트・コンサト」のように長音の拍を発音しなかったり、母語と全く同じ発音をする例も見られる。

「パーティー」の「ティ」の問題はやはり「ボランティア」にもあらわれ「ティ」の代りに「チ・テ」に発音している。これらの現象は恩塚(2004)にも指摘しているように初級日本

15)特に「홈페이지」の「홈」のところが日本語では「ホーム」3拍になり、3音節の「인터넷」は日本では6拍になること。

語のテキストには「ティ・ニュ・ファ・フォ」などの音節表記はほとんど提示されていない¹⁶⁾ので当然、発音の問題にもなる。そこでカタカナの記述や指導する際、初級段階からこれら音節も含めて考慮すべきである。

<表8> 2級の5拍語以上の内訳

	コンサート	ボランティア	リサイクル	ホームページ	インターネット
B1	○	○	○	○	○
B2	○	○	○	○	○
B3	○	○	○	○	インターネット
B4	○	○	○	ホームページ	○
B5	コンサ	ボランチア	○	홈페이지	インターネット
B6	○	○	○	ホームページ	インターネット
B7	콘서트	보ランティア	리사이클	홈페이지	○
B8	○	보ランティア	리사이클	홈페이지	인터넷
知覚率	6/8	5/8	6/8	3/8	4/8
	7/8	5/8	6/8	3/8	6/8

2.3 JLPT 3級の知覚率

2.3.1 2拍語

3級の2拍語の発音テストの内訳を<表9>に示した。知覚率は62.5%(68.8%)で、2級の2拍語に比べ書き取りテストの結果とはそれほど差はない。注目したいのは「シャツ」の場合、発音の知覚率がやや上回っていることである。このように書き取りの知覚率より発音の知覚率が高いのはこの例しかない。これは「シャツ」の書き取りテストで「ツ」の前に「一」を入れた例が7/8¹⁷⁾もいたからである。「ドア」は「ドワ2/8」に発音されているのは全部6例見られたが、これは母語の「도어」と「ドア」との混同からきた例であろう。「셔츠1/8・버스1/8・뽕1/8」で母語と全く同じ発音をしている例も見られた。

<表9> 3級の2拍語の内訳

	ドア	シャツ	バス	パン
--	----	-----	----	----

16) 一般の日本語のテキスト他に現在高校で使っている2007・2009改訂日本語教科書を調べた結果も同様な傾向であった。

17) 「シャ」が拗音で、母音[a]のところを伸ばす傾向があるからであろう。

C1	○	○	○	○
C2	○	シャツ	○	○
C3	ドワ	シャツ	バース	バーン
C4	○	셔츠	○	○
C5	○	シャツ	○	○
C6	ドワ	サツツ	머스	뽕
C7	○	○	○	○
C8	ドーア	○	○	○
知覚率	5/8	3/8	6/8	6/8
	6/8	1/8	8/8	7/8

2.3.2 3拍語

<表10>に3級の3拍語の発音の内訳を示す。知覚率は45.8%(68.8%)を見せ、書き取りと発音の知覚率の差は23%もあらわれ、2拍語(6.8%)に比べかなり割合が高い。これは2拍語に比べ3拍語には特殊拍がたくさん含まれ、特に促音や語末の「一」は認識はしていながらもその発音はしない傾向がある。韓国人の日本語学習者には特殊拍18)の感覚がないため、このような現象が起こる。語中の「一」より語末の「一」は書き取り・発音ともかなり困難であることがわかる。

「コピー」の場合、1級・2級とも4/8、3級は1/8であらわれた。このように知覚率が低い原因は語末の「一」発音の難しさや「促音挿入現象」、拙稿(2014)にも指摘したように韓国人日本語学習者の「コピー-copy카피」や「コーヒー-coffee커피」との紛らわしきなどが考えられる。「メニュー」の場合も知覚率が低かったのは語末の「一」の認識の問題と関わりがある。

「カード・ペット」は書き取りでは100%の知覚率を見せていたが、発音の知覚率は56.3%であらわれ、書き取りと発音とのずれが大きかった。

<表 10> 3級の3拍語の内訳

	カード	クラス	コピー	ジュース	ペット	メニュー
C1	○	○	コピー	○	○	メニュー
C2	카드	클래스	코피	즈스	пет	메뉴
C3	○	○	코피	○	○	○
C4	카아트	○	코피	즈스	펫트	○
C5	○	클라스	카피	○	○	메뉴

18) 外国人学習者の特殊拍の知覚については関光準(1987)・戸田(2003・2008)などに詳しい。

C6	カアド	○	コピー	ジュス	ペット	○
C7	○	○	○	쥬우스	○	ヌーニュ
C8	○	클래스	코피	○	페트	메뉴
知覚率	5/8	5/8	1/8	4/8	4/8	3/8
	8/8	7/8	0/8	7/8	8/8	3/8

2.3.3 4拍語

3級の4拍語の発音の内訳を<表11>に示す。平均45.8%(64.6%)の知覚率が見られ、書き取りとの差が大きく、発音の困難さを見せている。所々母語そのまま発音されている例が見られる。「サッカー・チケット・ネクタイ・パーティー」は前にも指摘されたように促音や語末の長音、母音の無声音化などの要因で知覚率が低い。このうち「パーティー」はそのばらつきが大きくて発音では「パーティー・パティ・パッティ・パーチ・パーテ」に書き取りでは「パティー・パッテー・パッテ・パチー・パッーテ・パター」のパターンにあらわれ、語末の「ー」を書き取りでは知覚していながら発音では長音の感覚が欠如していることが分かる。

無声音の前に促音を挿入してしまう傾向も所々見られる。特に語中の「ー」の代りに促音を入れる傾向が見られる。またこの傾向とは逆に促音の代りに「ー」で発音される例も見られ知覚率に影響を与えている。

「ネクタイ」は1級や2級でも母音の無声音化の問題で発音に影響を与えていたが3級はその数が倍になっている。

<表 1 1> 3級の4拍語の内訳

	アドレス	サッカー	スポーツ	チケット	ネクタイ	パーティー
C1	○	○	○	○	○	パーティー
C2	주소	샷카	스포츠	○	○	○
C3	○	사카	○	チケト	네크 타이	○
C4	アドレス	○	스포츠	○	○	パティ
C5	○	사카	○	チケト	○	パッティ
C6	어드레스	○	○	티켓	네크 타이	パーチ
C7	○	사카	스포츠	チケ	ネクタイ	パッティ
C8	○	사카	○	티케	네크 타이	パーテ
知覚率	5/8	3/8	5/8	3/8	4/8	2/8
	7/8	5/8	8/8	3/8	6/8	2/8

2.3.4 5拍語以上

<表12>に3級の5拍語以上の発音の内訳を示す。拍数が長いいためか、平均の知覚率は40%(50%)で、2級と同様に母語「홈페이지」の影響で「ホームページ」の知覚率が一番低かった。「ボランティア」は「ティ」のところを「티・チ・テ」に語末の「ア」の代りに「어・ヤ」に発音されていた。「リサイクル」は「~クル」のところを「~쿨」に発音する傾向がある。このように3級は全体的に1級や2級に比べ日本語にない発音つまり母語で発音する傾向が強い。これは特殊拍の感覚の欠如や日本語の母音と母語の母音の違いから発生する問題であろう。このような理由で、発音においても日本語の能力が低いほどその知覚率も下がってくるのが分かる。1級と2級の差は7.5%であるが、2級と3級の差は急激に下がって、20%の差が見られた。

<表 12> 3級の5拍語以上の内訳

	コンサート	ボランティア	リサイクル	ホームページ	インターネット
C1	コンサト	볼란티아	○	홈페이지	○
C2	○	볼란티어	리싸이클	○	인터넷
C3	콘서트	볼란치아	○	○	인터넷
C4	○	볼란티아	리싸쿨	홈페이지	인터넷
C5	コンサ	○	○	홈페이지	○
C6	コンサト	○	리싸쿨	홈페이지	○
C7	○	볼란티야	리싸쿨	홈페이지	인터넷
C8	○	○	○	홈페이지	인터넷
知覚率	4/8	3/8	4/8	2/8	3/8
	6/8	3/8	5/8	1/8	5/8

2.4 JLPT 4級レベルの知覚率

2.4.1 2拍語

4級レベルの2拍語発音リテストの内訳を<表13>に示した。平均の知覚率は書き取りと同じ53.1%であった。3級までは発音が書き取りの知覚率を下回っていたが、「シャツ」の場合、逆に発音のほうが高く調査された¹⁹⁾。「調査対象語4語とも「도어·셔츠·머스·빵」に発音した例が見られる。このように4級レベルの学習者は2拍語でもカタカナ語を自分のものにせず、母語や原語との混同を起こしていることが分かる。

19) 3級の「シャツ」も書き取りより発音の知覚率がやや上回っている。

<表 1 3>4級レベルの2拍語の内訳

	ドア	シャツ	バス	パン
D1	○	サツ	○	○
D2	도어	○	빠스	○
D3	○	○	○	○
D4	ドワ	シャツ	버스	○
D5	○	셔츠	○	빵
D6	ドワ	셔츠	○	○
D7	ドーフ	○	버스	빠양
D8	○	○	바스	판
知覚率	4/8	4/8	4/8	5/8
	4/8	1/8	6/8	5/8

2.4.2 3拍語

4級レベルの3拍の発音の内訳を<表14>に示した。平均の知覚率は29.2%(35.4%)で、3拍語より急激に下がっている。「カード」を除けば、書き取りとの差もあまり見られず、「メニュー」は書き取りでは正解は1名もいなかったが、発音では1名見られた。

D7の1名のみ空欄(√)になっているところが3箇所あらわているが、書き取りでは4名の7箇所見えた。これはまだカタカナ語を完全に自分のものにしていないからであろう。D4も「メニュー」のところを「メー」のみ発音し、カタカナ語を完全に身につけていないことが分かる。書き取りではカタカナ文字自体を知らないためか、ひらがなで表記されているところと空欄のところが目立っていたが、発音テストでは原語を参考にしたのか空欄のところが少ない。

<表 1 4>4級レベルの3拍語の内訳

	カード	クラス	コピー	ジュース	ペット	メニュー
D1	○	○	코피	○	пет	○
D2	카드	클라스	○	주스	○	메뉴
D3	○	케라스	코피	저스	○	메뉴
D4	○	클래스	코피	○	페트	메
D5	카드	글라스	코피	주우스	페트	메뉴
D6	○	○	카피	○	○	메뉴
D7	카드	√	코피	√	пет	√
D8	카아드	클레스	카피	저스	페트	메뉴
知覚率	4/8	2/8	1/8	3/8	3/8	1/8
	7/8	2/8	1/8	4/8	3/8	0/8

2.4.3 4拍語

4級レベルの4拍語の発音の内訳を<表15>に示した。平均18.8%(20.8%)の知覚率を見せ、1級66.7%・2級62.5%・3級45.8%に比べ急激に下がっている。これはカタカナを自分のものにしていないことや「ッ、ー」などの特殊拍²⁰⁾の感覚を十分に身につけていないからであろう。「ネクタイ」の場合、書き取りでは母音の無声音化が起こる「ク」を「ッ」で認識する傾向²¹⁾が強かったが、発音テストでは2名のみ「ッ」で認識していて残りは「네크타이 4/8・넥타이 1/8・空欄1/8」であらわれ、正解は1名もいなかった。

空欄のところは書き取りでは9箇所見られたが、発音ではD6とD7に4箇所見られた。これは発音テストの場合、原語を参考しているのでカタカナ文字を習得していなくても適当な発音で書いておくためである。

<表 15>4級レベルの 4 拍語の内訳

	アドレス	サッカー	スポーツ	チケット	ネクタイ	パーティー
D1	アドレス	サッカー	スポーツ	チケット	네크타이	파티
D2	○	サッカー	○	티켓트	넥타이	파티
D3	アドレス	シャッカー	○	○	네크타이	파티
D4	○	○	スポーツ	チケット	ホーイ	パーティ
D5	어드레스	シャッカ	スポーツ	チケット	네크타이	파티
D6	✓	サッカー	スパツ	○	네크타이	パーティー
D7	○	サーカ	○	✓	✓	✓
D8	アドレス	サカ	スポツ	티켓	넥타이	파티
知覚率	3/8	1/8	3/8	2/8	0/8	0/8
	3/8	1/8	4/8	1/8	1/8	0/8

2.4.4 5拍語以上

4級レベルの5拍語以上の発音の内訳を<表16>に示す。平均の知覚率は20%(10%)で、書き取りより発音の知覚率が高いのはこしかない。これはカタカナを充分身につけていないレベルで拍数の長い語を正確に書くのはかなり困難であるからである。間違っている例をみると、書き

20)拙稿(2010・2011)でも特殊拍の発音や聴取の正解率は中・上級者に比べかなり低く調査された。またレベル別多少の差はあるものの、音声項目のうち、アクセントの次に特殊拍の中でもこの「ッ、ー」の難易度が高く調査され、「ッ、ー」の特殊拍の習得の難しさを示唆している。

21)間違っ表記した7名のうち5名が「ネクタイ」の「ク」代りに「ッ」で答えていた。

取りと発音が一致していないところが目立つ。これはカタカナ文字自体がまだ自分のものにされていない証拠である。

4拍語や5拍以上の語で特に知覚率が低いのは文字自体の紛らわしさ、「ッ、一」などの特殊拍の感覚の欠如、拍数の長さ、母語などの影響が与えられているからである。拍数の短いほど知覚率が高く調査された点からみると、日本語のレベルが低いほど拍数の長い語は避けて短いカタカナ語を採入れて指導すべきであると思われる。

<表 16>4級レベルの5拍語以上の内訳

	コンサート	ボランティア	リサイクル	ホームページ	インターネット
D1	○	ボランティア	リサイクル	ホームページ	○
D2	○	ボランティア	リサイクル	ホームページ	インターネット
D3	콘서트	○	○	홈페이지	인터넷
D4	콘서트	볼ランティア	리사이클	홈페이지	인터넷
D5	○	ボランティア	○	홈페이지	인터넷
D6	콘서트	볼ランティア	✓	홈페이지	인터넷
D7	콘서트	✓	✓	홈페이지	✓
D8	콘서트	보ランティア	리사이클	홈페이지	인터넷
知覚率	3/8	1/8	3/8	0/8	1/8
	3/8	0/8	0/8	0/8	1/8

3. 日本語能力別・拍数別知覚率のまとめ

<表1>～<表16>までをまとめて<表17>に示した。本稿の調査の対象語が高校で学習したカタカナ語であるにも関わらず、拍数別に差はあるものの、平均の知覚率は53%(64.4%)にすぎなかった。カタカナ語のアクセントの知覚率とは違って、カタカナ語の書き取りテストと同様に発音テストの知覚率も日本語能力順となっていることがわかる。書き取りの知覚率より発音テストの知覚率が低く調査された点に注目すべきである。日本語のレベル別知覚率の差が見られ、特に3級と4級レベルの差は大きかった。これは4級レベルはカタカナ文字が完全に習得されていない点や「ッ・一」などの特殊拍の感覚の問題²²⁾などが原因となっていることが検討された。特殊拍の感覚の問題は全レベルであらわれる傾向であって、これは知覚

22) 関光準(2011)には日本語学習初期段階から特殊拍などの音声教育の必要性を強調している。

率に一番影響を与えていた。また拍数の長いほど知覚率が低くあらわれた点は、今後カタカナ語の教育に注意したいのである。拍数別・レベル別の知覚率は次の[表17]を参考にしたい。

<表 17>カタカナ語の発音と書き取りの知覚率の内訳

	2拍語 32(128)	3拍語 48(192)	4拍語 48(192)	5拍語以上 40(160)	レベル別 合計(168)
A(1級)	* 28(87.5)	34(70.8)	32(66.7)	27(67.5)	121(72.0)
	**30(93.8)	41(85.4)	42(87.5)	33(82.5)	146(86.9)
B(2級)	25(78.1)	30(62.5)	30(62.5)	24(60.0)	109(64.9)
	29(90.6)	39(81.3)	38(79.2)	27(67.5)	133(79.2)
C(3級)	20(62.5)	22(45.8)	22(45.8)	16(40.0)	80(47.6)
	22(68.8)	33(68.8)	31(64.6)	20(50.0)	106(63.1)
D(4級 レベル)	17(53.1)	14(29.2)	9(18.8)	8(20.0)	48(28.6)
	17(53.1)	17(35.4)	10(20.8)	4(10.0)	48(28.6)
拍数別 合計 (672)	90 70.3%	100 52.1%	93 48.4%	75 46.9%	358 53.3%
	98 76.6%	130 67.7%	121 63.0%	84 52.5%	433 64.4%

*印のところはカタカナ語の書き取りの知覚率を現わしている。()の中は%が省略されている。

**印のところは拙稿(2014.9)の結果(カタカナ語の書き取りの知覚率)を現わしている。

4. おわりに

以上、拙稿(2014)に続き、カタカナ語の発音テストを行ない、日本語能力別・拍数別の知覚率の結果を次のようにあげられる。

第1は、拙稿(2014)のカタカナ語の書き取りテストの知覚率は平均64.4%が出ていたが、本稿の発音テストでは53.3%で以外に低く調査された。これは特殊拍を認識していても「促音」や語末の「一」の発音の難しさが大きな原因であることが分かる。

第2は、カタカナ語の書き取りテストの結果と同様に日本語能力が低いほど知覚率が低く調査され、1級72%(86.9%²³⁾)、2級64.9%(79.2%)、3級47.6%(63.1%)、4級レベル28.6%(28.6%)であらわれた。これはレベルの低いほどカタカナ文字が充分習得されず、この

23) ()の中は拙稿(2014)のカタカナ語の書き取りテストの知覚率の結果である。(以下、同じである。)

上、特殊拍の感覚の欠如や母音の無声音化の困難などが原因となっている。

第3は、拍数が短いほど知覚率が高く調査され、2拍語70.3%(76.6%)、3拍語52.1%(67.7%)、4拍語48.4%(63.0%)、5拍語以上46.9%(52.5%)の順であらわれた。特に4級レベルの4・5拍語以上の例では知覚率が非常に低くて、拍数の長い語は避けて短いカタカナ語を採入れて指導すべきであると思われる。

第4は、発音の知覚率に影響を与えているのは特殊拍の感覚の問題、特に語末の「一」の発音の難しさ、促音の感覚の欠如と同時に促音の挿入現象、母音の無声音化の困難さ、母語の影響、拍数の長さ、「ティ・ファ・フォ」などの音節の知覚の問題などが挙げられる。

このように、カタカナ語を指導する場合、まず特殊拍の感覚を充分身につけてから、拍数の短い語を中心に習得させ、カタカナ文字に自身感がついてから、拍数の長い語や「ティ・ファ・フォ」などの音節を含んだ語を徐々に指導したほうが効果的であると考えられる。

【参考文献】

- 関光準(1987)「韩国人の日本語の促音の知覚について」『日本語教育』62号, pp.179~193
- _____ (2000)「한국인 학습자의 일본어 발음에 나타나는 축음 삽입 현상」『日本文化学報』第9輯, 韓国日本文化学会, pp.75~92.
- _____ (2011)「초급 학습자를 위한 일본어 음성 교육 방법」『日本語教育』第55輯, 韓国日本語教育学会, pp.63~74.
- 李香蘭(2010)『日本語音声教育』語文学社, pp.1~210.
- _____ (2010)「韩国人学習者の日本語発音の難易度調査と指導方案 -初級学習者と中上級学習者の発音現象を中心に-」『日本語教育』54輯, 韓国日本語教育学会, pp.13~24.
- _____ (2011)「日本語音声教育における聴取の難易度-韩国人学習者のレベル別聞取り判断を中心に-」『日本文化学報』第48輯, 韓国日本文化学会, pp.101~121.
- _____ (2012)「7次改訂日本語教科書の音声項目の分析」『日本言語文化』第22輯, 韓国日本言語文化学会, pp.373~389.
- _____ (2014)「日本語学習者のカタカナ語の書き取りテスト」『日本語文学』第62輯, 韓国日本語文学会, pp.169~186.
- 石綿敏雄(1990)『基本外来語辞典』東京堂, pp.1~1026.
- 恩塚千代(2004)「カタカナ語の表記指導に関する一試案」『일본어학연구』第9輯, 韓国日本語学会, pp.103~115.

戸田貴子(2003)「外国人学習者の日本語特殊拍の習得」『音声研究』第7巻第2号, pp.70~83.
_____(2008)「日本語学習者の音声に関する問題点」『日本語教育と音声』くろしお出版, pp.3~21.

【参考日本語教科書】

<2007改訂課程教科書>

김숙자의日本語 I (주미래엔, 2011, 8 김옥임의日本語 I 지학사, 2011, 8
윤강구의日本語 I (주다락원, 2011, 8 임영철의日本語 I 천재교과서, 2011, 8
최충희의日本語 I 천재교육, 2011, 8 한미경의日本語 I (주)교학사, 2011, 8

<2009改訂課程教科書>

민광준의日本語 I 천재교육, 박운원의日本語 I (주)도서출판 길벗
안병곤의日本語 I 에듀서울, 오현정의日本語 I (주)미래엔
윤강구의日本語 I (주)다락원, 이경수의日本語 I 시사일본어사
한미경의日本語 I (주)교학사

논문 투고 일자 : 2016. 1. 1
논문 심사 일자 : 2016. 1. 31
게재 확정 일자 : 2016. 2. 4

 <要旨>

日本語学習者のカタカナ語の発音知覚率

李香蘭

本稿では、拙稿(2014)のカタカナ語の書き取りテストの結果を用いて発音とのずれがどれぐらいあるのか、またずれの原因や発音の知覚率に影響を与えている要因、日本語能力との関わりなどを多角的に分析・検討した。その結果は次のように纏めることができる。第一は、拙稿(2014)のカタカナ語の書き取りテストの知覚率は平均64.4%と出ていたが、本稿の発音テストでは53.3%で意外に低い調査結果となった。第二は、カタカナ語の書き取りテストの結果と同様に日本語能力が低いほど知覚率が低く、また拍数が短いほど知覚率が高い結果になった。第三は、発音の知覚率に影響を与えているのは特殊拍の感覚の問題、特に語末の「一」の発音の難しさ、促音の感覚の欠如と同時に促音の挿入現象、母音の無声音化の難しさ、母語の影響、拍数の長さ、「ティ・ファ・フォ」などの音節の知覚の問題などが挙げられる。

このように、カタカナ語を指導する場合、まず特殊拍の感覚を充分身につけてから拍数の短い語を中心に習得させ、カタカナ文字に自信感がついてから、拍数の長い語や「ティ・ファ・フォ」などの音節を含んだ語を徐々に指導したほうが効果的であると考えられる。今後、韓国人の日本語学習者へのカタカナ語の発音教育に役立てていきたい。

Perception rate of the pronunciation of the katakana word of the Japanese learner

Lee, Hyang-Ran

For this study, Koreans learning Japanese language were divided according their level to carry out perception rate tests on katakana pronunciation to examine the differences in perception rate in dictation test as proposed in my earlier study (2014) and the perception rate for each competence and mora (拍数). Also, factors affecting each perception rate were analyzed to contribute to education of katakana. The results of multilateral analysis and examination of the perception rate of katakana pronunciation can be summarized as follows: First, the perception rate for dictation of katakana was average 64.4% and the perception rate for the pronunciation as surveyed in this study was unexpectedly low with 53.3%. Second, similar to the results of dictation test, the lower the competence in Japanese language was, the lower the perception rate was; and the longer the mora was, the lower the perception rate was. Third, factors affecting perception rate for pronunciation include the problem of the sense of the special mora, especially the difficulty of pronouncing 「hikuon」, the phenomenon of 「sokuon」 insertion as well as the phenomenon of 「sokuon」 falling off, the difficulty of voiceless sound phenomenon of vowels, the interference of the mother tongue, the length of mora, and the problem of perceiving syllables such as 「ティ・ファ・フォ」

As discussed above, in order to reduce factors hindering perception rate in instructing katakana, the sense of the special mora should be first mastered sufficiently so that the learners reach confidence in the letters/characters and pronunciation of those words of short mora, and then the learners would be able to learn slowly the words of longer mora and words that include syllables such as 「ティ・ファフォ」